

だってだっての おばあさん①名まえ)

○上の文しやうを よんで、下の もんだいに こたえましよう。

この いえには、おばあさんと 一ぴきの ねこが すんで いました。おばあさんは、とても おばあさんで、九十八さいでした。ねこは、げんきな 男の ねこでした。

ねこは、まい日、ぼうしを かぶって、ながぐつを はいて、つりぎおを もって、さかなつりに いきました。ねこは、まい日、

「おばあちゃんも、さかなつりに おいでよ。」と さそいました。おばあさんは、

「だって、わたしは 九十八だもの。九十八のおばあさんが さかなつりを したら、にあわないわ。」

と ことわりました。

ねこは、それでも、げんきに さかなつりに 出かけました。そして、おばあさんは、まどの 下の いすに すわって、はたけで とれた まめの かわを おいたり、おひるねを したり しました。

「だって、わたしは 九十八だもの。」

ねこは、まい日、たくさん さかなを つつて かえりました。おばあさんは、ねこにいました。「なんて、おまえは、さかなつりが じょうずなんだろう。およいで とるのかい。どこの川で とるんだい。」

ねこは、
「おばあちゃんも いっしょに くれれば、ぼくが さかなを とる ところ、 見られるのに。」
といいました。

光村図書「だってだっての おばあさん」より

一、おばあさんは、どんな おばあさんで、ねこは、どんな ねこ ですか。

・ () さいの おばあさん

・ () のねこ

二、ねこは、まい日、なんと いって、おばあさんを さそっていますか。

三、おばあさんは、まい日、なんと いって、ことわって いますか。

四、おばあさんは、まい日 なにを していますか。

・ はたけでとれた

() 、

() () しました。

五、ねこは、おばあさんのことを、
どうおもって いるでしょう。あう
ものに ○をつけましよう。

() いっしょにさかなつりにいきたいな。

() さかなつりに きてほしくないな。

() いっしょに いたくないな。

だってだつてのおばあさん②名まえ)

○上の文しようにを よんで、下の もんだいに こたえましょう。

一、おばあさんは、おたんじょう日に
なにをしましたか。

二、おばあさんは、おたんじょう日の
ことをどうおもっているでしょう。
あう ものに ○をつけましょう。

- () じゅんびするのめんどくさいなあ。
- () おたんじょう日 うれしいなあ。
- () 早く おわらないかなあ。

三、ねこは、どのように、ろうそくを
かいに いきましたか。

四、ろうそくを かいに いくとき、
ねこはどうおもっているでしょう。
あう ものに ○をつけましょう。

- () 早く ケーキが たべたいな。
- () いやだなあ。

() おばあさんの ために がんばろう。
五、ねこは、どうして、なきながら か
えって きたのでしょうか。

さて、きょうは、おばあさんの 九十九さいの
おたんじょう日です。おばあさんは、あさから
ケーキを つくりました。ねこは、おばあさんの
つくる ケーキが 大すきでした。

「おばあちゃん、ケーキを つくるの、じょうず
だね。」

「だって、わたしは おばあちゃんだもの。」

おばあちゃんは、ケーキを つくるのが

じょうずな ものよ。」

おばあさんは、ねこに いいました。

「ろうそくを かって きて おくれ。」

九十九本だよ。ろうそくを かぞえなくっちゃ、
ほんとうのおたんじょう日じゃないもの。」

ねこは、ろうそくを かいに いきました。

いそいで、いそいで、大いそぎで いきました。

いい においが して きました。

「ふん、ふん、ケーキは 大せいこう。」

これは、大せいこうの におい。」

おばあさんは、テーブルの 上に、おたんじょ
う日よのう テーブルかけを かけて、ナイフと
フォークを 出しました。

その とき、ねこが、大きな こえで なきな
がら、かえって きました。ねこは、左手に や
ぶれた ふくろと、右手に ろうそくを 五本、
もって いました。ねこは、あんまり いそいだ
ので、川の 中に ろうそくを おとして きて
しまったのです。

だってだつての おばあさん③名まえ)

○上の文しやうを よんで、下の もんだいに こたえましよう。

ねこは、おばあさんの かおを 見て、まえよりも もっと 大きな こえで なきました。

おばあさんは、がっかりしました。

「五本だつて、ないより ましき。さあ、ろうそくを、じょうずに ケーキに 立てて おくれ。

五本だつて、ないより ましき。」

おばあさんは、あかりを けして、ろうそくに 火を つけました。あたりが あかるく なりました。

「おばあちゃん、かぞえて。」

と、ねこが いいました。

「一つ、二つ、三つ、四つ、五つ。ろうそくをかぞえると、ほんとうに おたんじょう日の きぶんになるわ。」

おばあさんは、もう一かい かぞえました。

「一さい、二さい、三さい、四さい、五さい。

五さいの おたんじょう日、おめでどう。」

と、じぶんで じぶんにおいおいをいいました。

ねこが、もう いちど かぞえました。

「一さい、二さい、三さい、四さい、五さい。

五さいの おたんじょう日、おめでどう。

おばあちゃん、ほんとに 五さいなの。」

「そうよ。だつて、ちゃんと ろうそくが 五本あるもの。ことし、わたし、五さいになったのよ。」

と いいました。

「ぼくと おんなじ。」

そして、ふたりは、おいしい ケーキを たべて、ねました。

光村図書「だってだつての おばあさん」より

(

一、ろうそくを 見た おばあさんは、どう いいましたか。あう ものに ○を つけましよう。

() もう 一かい かつてきて おくれ。

() 五本だつて、ないより ましき。

() なんて ねこは ないているのかな。

二、おばあさんが ろうそくの かずをかぞえているとき、どんな ふうに よんだら いいでしょう。あう ものに ○を つけましよう。

() うれしそくに。

() かなしそくに。

() ざんねんそくに。

三、ねこは、なんさいでしょう。

() ()

四、ケーキを たべているときの、おばあさんと ねこの かいわを そうぞうして、ふきだしに かいてみましよう。

おばあさん

ねこ

だってだつてのおばあさん④名まえ

○上の文しやうを よんで、下の もんだいに こたえましよう。

つぎの あき、ねこは、ぼうしを かぶって、
ながぐつを はいて、さかなつりに 出かけよう
と しました。

「おばあちゃんも おいでよ。」

おばあさんは、

「だって、わたしは 五さいだもの。あら、そう
ね。五さいだから、さかなつりに いくわ。」

と いうて、おばあさんは、ぼうしを かぶって、
ながぐつを はいて げんき よく、 ねこと
いっしょに 出かけました。

のらは、とても ひろくて、やさしい かぜ
が ふいて いました。おばあさんは、もう な
がい こと、こんな とおくまで きた ことが
ありませんでした。花が、たくさん さいて い
ました。おばあさんは、花の においをくんくん
かぎながら、

「五さいって、なんだか ちようちょ みたい。」
ずいぶん あるいて、川に きました。ねこは、
びよんと 川を とびこえました。

「おばあちゃんも おいでよ。」

と、ねこは さそいました。

「だって、わたしは 五さいだもの。あら、そう
ね。五さいだから、わたしも とぶわ。」

おばあさんは、とびました。

おばあさんは、とびました。

五さいの おばあさんは、九十四ねんぶりに、
川を とびこしました。

「五さいって なんだか とりみたい。」

光村図書「だってだつてのおばあさん」より

一、おたんじよう日の つぎの日に、
おばあさんは、なにをしましたか。

（ ）を かぶって、（ ）

を はいて、（ ） 、ねこと

いっしょに（ ）。

・花の においを（ ） かぎながら、

・（ ）川に きました。

・九十四年ぶりに、

（ ）

二、おばあさんは、五さいを、なに
みたいと いうて いますか。わかる
ところを 二つ かきましよう。

三、ねこが さかなつりに さそうと、

おばあさんは、なんと いいましたか。

・おたんじよう日の まえの日

（プリントの①を見ましよう）

・おたんじよう日の つぎの日

だって だっての おばあさん⑤名まえ

○上の文しやうを よんで、下の もんだいに こたえましよう。

おこうぎしに つきました。

そして、もっと 川下の、ひろい 川のほうまで
あるきました。ねこは、ズボンを ぬいで、川に
とびこみました。

「ああ、いい気もち。おばあちゃんもおいでよ。」
と さそいました。

「だって、わたしは五さいだもの。あら、そうね。
わたしも 入るわ。」

と いった、おばあさんも、ながぐつを ぬいで、
川に 入りました。

「あら、スカートが ぬれるわ。」

と いった、おばあさんは、スカートを もち上
げました。まえかけの 中に、さかなが 一ぴき
入って いました。

「あら、わたし、なんて、さかなつりが じょう
ずなんだらう。五さいって なんだか さかな
みたい。」

おばあさんが 立ち上がると、まえかけの ひ
もが、水の 中に 入りました。すると、まえか
けの ひもに、一ぴきずつ、さかなが ぶら下が
って きました。

「あら、あら、あら、わたし、なんて、
さかなつりが じょうずなんだらう。」

おばあさんは、すっかり おちゅうに なって
さかなを とりました。

「五さいって なんだか ねこみたい。」

ねこも、おばあさんも、たくさん さかなを
とりました。

「ねえ、わたし、どうして まえから 五さいに
ならなかったのかしら。らいねんのおたんじょ
う日にも、ろうそく五本、かってきておくれ。」
と、おばあさんは いいました。

「でも、おばあちゃん、五さいでも、ケーキ
つくるの じょうず。」

ねこは、すこし しんぱいそうに ききました。

光村図書「だって だっての おばあさん」より

一、おたんじょう日の つぎの日に、
おばあさんは、なにをしましたか。

・（ ）をぬいで、（ ）に
入りました。

・おばあさんは、すっかり（ ）
になって、（ ）をとりました。

二、おばあさんは、五さいを、なに
みたいと いていますか。わかる
ところを 二つ かきましよう。

三、らいねんの おたんじょう日に
ついて、おばあさんは、なんと いい
ましたか。

四、おばあさんが、三のように いった
わけを かんがえましよう。

だっただっのおばあさん⑥

名まえ（

○「だっただっのおばあさん」の中で、「いいな。」「すきだな。」とおもったところをかき
ましよう。そう おもった わけも かきましよう。

「いいな。」「すきだな。」とおもったところのえ

すきなところ

わけ